

ブダペスト◎盛田常夫

## 再び政治の季節が到来

日本の総選挙の結果を興味深く見守りました。ブダペストではかなり前から、日本経済新聞と朝日新聞の欧州通信衛星版の宅配が始まっており、その日の夕刻には朝刊を手にすることができます。それに加え、3年前にやはりロンドンからの衛星放送が開始され、NHKの夜7時、9時のニュースが7時間（冬は8時間）の時差で見ることができますから、日本にいたるときと同じ程度の情報量を受け取っているように思います。

それにしても、政治改革のスローガンが選挙制度の改定のみ限定されていることで、事の本質が隠蔽されていますが、どうみても保守の近代化プロセス以上のものではないと思いますが、いかがでしょうか。それはそれでたいへん意味のあることですが、それにしても社会党、共産党の凋落ぶりはなんということでしょう。大都市で支持のない革新などというのは、もう存在価値を否定されたことと同義ではないですか。

保守が新しい時代のなかで生まれ変わりの模索をしているときに、「革新」がベトナム戦争時代までの「戦争か平和か」の感覚のままでは、支持が先細りするの is 当然でしょう。旧社会主義社会と同じ末期症状だといわざるをえません。

## ●中・東欧も総選挙の季節

ポーランドは9月、ハンガリーは来年春が総選挙です。「東欧改革」後の最初の政府に審判が下されるという意味で、注目に値します。

ハンガリーの選挙制度はやや複雑で、小選挙区（有権者6万人で176選挙区）、県単位のブロック比例区（県単位で有権者7万人に1名の割で、152名）、ブロック比例区の死票を集計して調整される全国比例区（58名）の3つの制度から成り立っています。これに4%条項が加わり、全国得票率が4%に満たない政党の得票は無効になります。90年の総選挙では27政党から立候補がありましたが、結局この4%条項が効いて、6党のみが議席の配分を受けることになりました。改選期間を4年としたことも、議会政治の安定化を図りたいという政党間の合意にもとづくものでした。

ハンガリーの議会政治にかんする限り、少数の政党による中期的安定を目指す議会制度は成功しているといえるでしょう。しかし、与党、野党を問わず、各党内部はこの3年間に四分五裂の騒動に見舞われてきました。

与党第一党のハンガリー民主フォーラム（MDF）は、設立当初から左翼との提携を推進するグループと、反社会主義反ユダヤの偏狭な民族主義グループを両極に抱えていました。首相のアンタルは癌に冒された体に

鞭打ち、中間派をまとめてここまで凌いできたのですが、民族主義グループのリーダーであるチュルカの度重なる挑発に耐えかねて、今春、このグループの除名を決定しました。新政府樹立から素人政治家集団ときびしい世論の批判を受け、支持を下げてきたMDFは、この分裂によってますます先細りが見えています。最近の世論調査では10%の支持率もありません。

MDFの支持基盤は地方都市、農村の中間層、富裕層で、ハンガリーの東部に強いのですが、人気急落で次期の選挙では地方で与党第二党と同じ基盤の票を食い合うことが予想されます。

与党第二党の独立小地主（FKGP）党は、1949年までの社会主義化による損害補償を掲げて第三党の地位を確保し、MDFと連立政府を樹立したのですが、ファナティックな党首トルジャンをめぐるごたごたが絶えず、昨年、トルジャンが別の集団を作ったことで党が分裂し、このグループは連立政府から離脱することになりました。

チュルカにしてもトルジャンにしても、非常にあくの強い政治家で、テレビのカリカチュア番組の主役にはなっても、政党の信頼獲得には逆効果となっています。すでに離党したとはいえ、統治能力欠如の厳しい批判に曝されるなか、それぞれの党

の一つの顔であった両者が残した後遺症は重く、次期の総選挙では現与党に99%勝ち目がないという観測が常識になっています。

### ●野党の現状

野党第一党の自由民主連合(SZDSZ)は前回の選挙でハンガリー西部と首都ブダペストを制しましたが、わずかの差で MDF に政権を取られたという思いがあります。アメリカのハンガリー系ユダヤ人の支持が強く、反共産主義反社会主義のインテリグループが主流で、左翼との連合を目指す勢力や中間派的な経済学者のグループは少数派を形成しています。指導部にはハンガリー動乱によって検挙され、処罰された人々や、サミスダートの発刊に携わっていた人々が主要ポストを占めていることもあって、もっともイデオロギッシュな野党という評判が定着しています。

法律家で若きリーダーのトルジェシは議員団長として与党との裏交渉の仕事を精力的にこなしていましたが、そのような政治スタイルを好まない学者インテリグループ(初代党首で哲学者のキシュ、2代目の国会議員団長で歴史家の現党首ペトゥーなど)と常にコンフリクトがあり、昨年、トルジェシが表舞台から下がり、ペトゥーが党首に収まるという合意によって、分裂の危機は回避されました。しかし、今後、連立交渉のなかで再び内紛がおこらないという保証はありません。

それというのも、国民の支持率が MDF と同様に低下の一途をたどっており、世論調査ではやはり10%前後の支持率しかなく、政権の獲得には青年民主連合や社会党の協力が不可欠になるからです。攻撃的でイデ

オロギッシュなところが嫌われるのに加え、自治体選挙で勝利を重ねましたが、MDF と同様に統治能力の弱さを露呈したり、権力を利用した不動産流用などの事件が生じたりして、信頼を失っているのが支持率低迷の原因です。主な支持基盤は都市の中小企業家、インテリ層です。

野党第二党の社会党(MSZP)は選挙後に旧体制最後の首相のネーメットが離党し、さらに大統領候補だったポジュガイも離党してしまい、たいへん小粒になってしまいました。旧体制の外務大臣だったホルンが依然として党首の地位を保っており、ポジュガイの新党設立による党外からの揺さぶりに現在まで耐えています。

新政権樹立以後も、旧社会主義労働者党を継承する党として選挙戦では総攻撃を浴び、新政府樹立後も旧党の資産隠しなどのキャンペーンで苦境にありましたが、最近は国民の支持率も上がり、やや上昇機運にあります。とくに、いったん社会党を離れた労働組合が、再び社会党への接近を図っていることが、支持率上昇の原因です。最近の調査では、次の青年民主連合に次いで、2番目に高い支持(12%前後)を獲得しています。

### ●FIDESZ への高い支持

野党第三党の青年民主連合(FIDESZ)は25%のダントツの支持率を獲得しています。このまま選挙があれば、F I D E S Z が連立政権を主導することになり、学生運動上がりのような若い青年が首相や大蔵大臣のポストを占めることに眉を顰める人もいます。それを意識してか、最近では国会にはリーダーたちがネクタイ姿で現われるようにな

りました。もっとも、先月、自由民主連合との選挙協力協定を結びましたから、そこから経験ある人材を閣僚として補給される道は開かれています。

FIDESZ の人気は年齢を問わず、広く各層にわたっており、イデオロギーに捕らわれない是々非々の集団であることが、支持を広げている要因です。社会主義化にかかわる損害補償の国会討論では、「古い所有権の話を持ち返すことはない」という立場から、唯一、補償不要の論陣を張りましたし、無所属で大蔵大臣になったクパの要請を受けて、経済政策立案のアドバイザーの役割を引き受けてもいました。昨年暮れ、MDF の民営化担当大臣がクーポン配布と類似した大衆民営化の政策を発表したときも、大蔵省は小手先の民営化策として反論しましたが、これも FIDESZ の立論でした。

他の政党が不動産の流用などの不正腐敗で批判を受けているなか、FIDESZ のみかそのような風聞から潔白でいましたが、今春には本部建物の転売、レンタカー会社の設立などの事実が FIDESZ の信用失墜の攻撃に利用され、初めて苦い経験をしました。公費助成はあるものの、やはり政治にお金がかかることは否めなく、各政党はあの手この手で資金源の発掘に汲々としているのが現状です。

この秋から来春の選挙に向けた本格的な準備が開始され、ハンガリーには再び政治の季節が到来というところでは。

[1993年8月11日]

(もりた・つねお/野村総合研究所研究顧問・ブダペスト経済大学客員教授)